

## 1.回復状況

圏域	R元 (実績値)	R5 (速報値)	H31(R1)年比	回復率の分析
			大崎圏域	77万人泊

## 2.数値目標の設定

R9 (目標値)	目標値設定理由
80万人泊	滞在型や圏域内での周遊型観光を推進し、1人あたりの宿泊数の増加を目指す。また、観光資源の活用・開発により集客の見込めるイベント等の実施、インバウンドや教育・研修旅行等を増加させることなどにより客室稼働率の向上を図る

### 設定の考え方：

#### ①令和元年度における大崎圏域の稼働日数

令和元年度における大崎圏域の客室数2,962室、宿泊数77万人泊、県全体の客室稼働率57.5%を用いて稼働日数を452日と算定

#### ②客室稼働率向上の見込み

宮城オルレや世界農業遺産関連の観光資源を活用した観光コースの造成、大規模イベントによる集客、教育旅行や企業の研修旅行の受入れ、インバウンドの増加等を見込むことで、令和5年度に県全体で58.3%だった客室稼働率を15%増加させ、73.3%とする。

#### ③令和9年度目標値

$$2,415(\text{室}) \times 452(\text{日}) \times (58.3 + 5 + 5 + 5)(\%) \div 80 \text{万人泊}$$

- ・令和5年度における大崎圏域の客室数2,415室が変わらない場合に、稼働日数を令和元年度と同じ452日に回復させる
- ・令和5年度の県全体の客室稼働率58.3%に対し、令和6年度から7年度、令和8年度、令和9年度でそれぞれ5%ずつ向上させる

# 数値目標の設定方針（大崎圏域）②

## 【参考①】 客室数の推移(大崎圏域)

	R1	R5
大崎	2,962室	2,415室

出典：観光庁・母集団名簿

## 【参考②】 客室稼働率の推移(県全体・全国)

	R1	R5
宮城県	57.5%	58.3%
全国	62.7%	57.0%

出典：観光庁・宿泊旅行統計調査